

020201採石業における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
2022	2	10 ～ 12	被災者が砕砂製造プラントの原料ホッパーで、原料である砕石が詰まったため、詰まりを除去しようとして、ホッパー内に入り、スコップで除去作業を行っていたところ、砕石が崩れたため、砕石の中に埋まり、被災した。	418	1	30 ～ 49
2022	11	14 ～ 16	ダンプトラックに積載した土砂を荷卸しするため投入場所に移動させていたところ斜面を約2.6m転落したものの。	221	1	1 ～ 9
2021	4	8 ～ 10	採石プラントにおいて、シックナータンク（濁水の沈殿分離を行う設備）の攪拌装置の駆動部分（チェーン）にグリスを注油する作業を行ったのち、当該タンクから操作盤へ続く通路へ戻る際に、通路の端部より、高さ約5.6メートル下の地面に墜落したものの。通路の端部には手すり等の墜落防止措置が講じられておらず、被災者は墜落制止用器具を着用していなかった。	417	1	10 ～ 29
2021	6	14 ～ 16	被災者は、金属探知機付きベルトコンベヤーが停止したため徒歩で操作室から当該コンベヤーに行き復旧させ、再び徒歩で操作室に戻っている途中、トラクターショベルが通行する通路において走行中（前進）のトラクターショベルにひかれ死亡した。	141	7	50 ～ 99
2021	10	10 ～ 12	事業場敷地内において、同僚労働者がトラクター・ショベルのバケットに製品を入れた状態で運搬用の下り坂道を走行していたところ、前方を歩いていた被災者を前輪で轢いた。	141	7	10 ～ 29
		14	砕石プラントにて、被災者がベルトコンベアのプーリー（回転軸）に右腕を			10

2021	11	～ 16	巻き込まれて意識がなくなった状態で発見された。救急車で病院へ搬送されたが死亡が確認された。なお、被災者は首にタオルを巻いて作業をしていたもの。	224	7	～ 29
2021	12	14 ～ 16	ブル・ドーザーに胸を轢かれた状態で発見されたもの。災害発生時は一人作業で、発生時間や作業内容等は不明。発見時、ブル・ドーザーは、場内の排水路に突入した状態で、エンジンは停止していた。現場内には20～30cm程度の積雪があったことから、除雪作業中に発生したものと思われる。	141	7	1 ～ 9
2020	2	～ 18	被災者はトラクターショベル（ホイールローダー）を用いて、岩石を細かく粉砕して作った土砂（製品）の運搬していた。土砂置き場にある土砂にバケットを差し込んだ状態で、被災者は何らかの理由によりエンジンを切ったところ、トラクターショベル（ホイールローダー）から下車したところ、土砂が崩れて生埋めとなったもの。	523	5	1 ～ 9
2020	5	10 ～ 12	碎石破砕プラントで作業を行っていた労働者が、当該プラントから500m程離れている採石場において、被災者が運転していた重機の動きが止まっていたこと、重機付近の採石場の法面が崩れていたことを確認したため、事務所にいた工場長へ連絡した。連絡を受けた工場長が、徒歩で採石場に向かったところ、重機のキャビンが多数の岩石に押しつぶされていた状況を確認したものの。	711	5	1 ～ 9
2020	6	10 ～ 12	採石場の通路においてホイール式トラクターショベルを走行していたところ、路肩の盛土を乗り越え、機械とともに約31.6m下の防災池に墜落したものの。法面を滑落中に、被災者は運転席から投げ出されており、災害発生約2時間30分後に池中で発見され、死亡が確認された。	141	1	10 ～ 29
2020	9	12 ～ 14	碎石プラントの異変に気付いた同僚が、不審に思って碎石投入用ホッパー下部のベルトコンベヤー付近に駆け付けたところ、当該ベルトコンベヤーのベルトとローラーの間に巻き込まれている被災者を発見した。その後、約3.5時間後に被災者を救出し、医療機関へ搬送するも死亡が確認されたもの。	224	7	1 ～ 9
		8	被災者は、碎石プラントののベルトコンベヤーを点検運転しているとき、同コンベヤーテールプーリー部分のベルトからタレゴムがはみ出ているのを見			10

2020	11	～ 10	つけて、パイプを使ってタレゴムのはみ出しを直そうと同コンベヤーテールプリーの傍らで作業していたところ、何らかの理由で同コンベヤー内部に倒れこみ、頭部を挟まれて死亡した。	224	7	～ 29
2020	12	12 ～ 14	被災者は、コンクリートブロック（重量：約2 t）をフォークリフトで運搬していたところ、下り坂（勾配約10度）をバックで走行中に法面にフォークリフトが乗り上げて横転したことにより、運転席から投げ出され死亡した。	222	2	1 ～ 9
2019	1	～ 10	被災者は砕石運搬用ベルトコンベヤー駆動部のカバーの点検作業をしていたが、移動中通りがかったがげの路肩が崩れ、がけ下に約5 m墜落し、入院加療していたが後日死亡したものの。	711	1	10 ～ 29
2019	3	～ 22	事業場敷地内破碎選別プラントにおいて、選別作業を行うベルトコンベヤーのリミッタースイッチに不具合が生じたことを示すランプが点灯したことから、破碎設備に上ってターンシュートと呼ばれるベルトコンベヤーの分岐点でリミッタースイッチに干渉していた堆積粉じんの除去作業を行っていたところ、3.2メートルの高さから墜落し死亡したものの。	418	1	10 ～ 29
2019	9	14 ～ 16	散水車を使用して散水作業を行おうとしていた被災者と連絡が取れないため、別の作業を行っていた同僚が被災者を捜索したところ、開いた状態の散水車の運転席のドアと、散水タンクへ給水するためのホースを支持する鋼製支柱との間に胸部がはさまれた状態の被災者を発見した。	221	7	10 ～ 29
2019	9	8 ～ 10	土砂を運搬するベルトコンベア（傾斜になっているもの）をボタン事務所というベルトコンベアから離れた場所にある所から、ベルトコンベアの運搬状況を確認していた被災者に、班長が無線で連絡するも、応答がなかった。そこで、班長が、ベルトコンベアを確認しに現地に向かったところ、ベルトコンベアの下部にあるロール部分とベルトとの間に仰向けになって挟まっている被災者を発見した。	224	7	10 ～ 29
2019	10	～ 18	被災者は、採石場において、場内を走行していたトラクター・ショベルの進路に立ち込んだため、トラクター・ショベルと接触後その前輪に轢かれたものの。	141	7	1 ～ 9

2019	10	14 ～ 16	採石場において、被災者は、超大型ダンプカーの荷台に乗せた砂利を採石場に併設されたストック場に荷下ろしするため、ストック場の荷下ろし場所までの通路をダンプカーでバック進入した際、通路の路肩部分が崩壊し、ダンプカーとともに高さ約7mのがけ下まで転落し死亡したもの。	221	5	1 ～ 9
2018	8	8 ～ 9	砕石工場内の火薬庫付近で、被災者が一人で発破作業の準備を行っていたところ、何らかの要因により、火薬庫内に保管されていた爆薬（合計約1.1t）が爆発した。	511	14	1 ～ 9
2018	9	14 ～ 15	採石場内において、被災者は階段採掘法で切られた地山の4段目ベンチ上でドラグショベル（機体重量48t）を運転していたところ、4段目ベンチが崩落しドラグショベルごと8.2m下のヤードに転落したもの。	711	1	10 ～ 29
2017	1	8 ～ 9	警備業務委託元である食品会社において、被災者は、警備業務研修として教育係の労働者とともに巡回警備業務を行っていた。地下にある排水処理施設の巡回のため、階段を下りていたところ、上から4段目でバランスを崩して前のめりで頭より転落し、頭部を強打した。搬送先の病院で、死亡が確認された。	142	7	1 ～ 9
2017	2	16 ～ 17	被災者が車輻系建設機械（ドラグ・ショベル）で土堤の構築作業を行った後、ドラグ・ショベルを所定の場所に戻すため、高さ約10mの法面（勾配38度以上）を登坂したところ、ドラグ・ショベルごと転落した。	142	1	50 ～ 99
2017	5	14 ～ 15	採石場で、ドラグ・ショベルを用いて採石積み込み作業中に、発破班から発破のため退避するよう合図があったため、作業を中断し、発破箇所から約50m離れた位置でドラグ・ショベルの運転席で待機していたところ、発破で飛んだ直径約18cmの石が運転席に飛来し、被災者の腹部に当たった。	511	4	1 ～ 9
2017	6	14 ～ 15	被災者は最大積載荷重20tダンプを運転し、自社採石場内の採石場から同場内の砕石プラントまで採石を運搬していた。午後3時過ぎ、採石場で、同僚が運転するドラグショベルで採石を積み込んだ後、約10m前進したところでダンプ右前輪が作業路路肩から落ち、ダンプごと約21m下の斜面下に転落した。	221	1	10 ～ 29

2017	7	16 ～ 17	災害発生場所において、ベンチカットで採石していた岩の法面下部で、被災者はクローラードリルを運転し、発破のための穿孔作業を行っていたところ、作業箇所上部の岩が崩壊し、被災者がクローラードリルごと埋まった。山から下りてこないことを不審に思った同僚が現場に見に行き、16時50分頃、災害を発見した。	711	5	～ 9
2017	9	14 ～ 15	産業廃棄物処理場で、被災者がトラックのあおりを直していたのを見たフォークリフト（以下「フォーク」という。）運転者は、手伝うためにフォークのエンジンをかけたまま停車させ、下車した。その際、フォークが自走し始め、運転者が止めようとしたが間に合わず、被災者はフォークの爪とあおりに挟まれた。	222	6	～ 9
2017	10	6 ～ 7	岩の小割作業に使用していたブレーカーの履帯が外れたため、ドラグショベルにて履帯を運搬しようと、バケットに履帯を掛けて走行していたところ、歩行中の被災者がバケットに近づいてきたのに気づき、走行を停止したところ、反動で履帯が落下し被災者の頭部に当たった。	142	4	10 ～ 29
2017	10	10 ～ 11	砕石プラントにおいて、被災者がプラントのベルトコンベヤー付近で調整作業を行っていたところ、被災者がコンベヤーの回転軸に右腕の衣服が巻き込まれて右腕を切断、左腕も挟まれた状態で倒れている被災者を別の労働者が発見した。なお、被災者は単独作業であったため、災害発生時刻は不明で、別の労働者が被災者を発見したときは心肺停止であった。	224	7	～ 9
2016	1	16 ～ 17	終業時刻になっても被災者が事務所へ戻らないことを不審に思った同僚が、被災者を探すために作業場に行ったところ、採石場を車輛にて運行するための経路の路肩下に散水車が転倒している状態で発見された。その近くに被災者が車外に放りだされていた。	221	1	10 ～ 29
2016	2	9 ～ 10	電気操作室内のストーブへの灯油供給に伴い、被災者は、ポリ容器内部の汚れを灯油で落とし、これを廃棄するためプラント作業場に立入っていたところ、同僚の運転するトラクターショベルに轢かれ、頭部挫滅により死亡した。	141	7	10 ～ 29
			被災者は、砕石工場において、ベルトコンベヤーの巡視、点検等を行う作業			

2016	4	11 ～ 12	者である。被災当日、被災者は、ベルトコンベヤー付近で、左腕が切断した状態で倒れているところを同僚に発見され、搬送先の病院で死亡が確認された。切断した左腕は、ベルトコンベヤーの回転軸付近に挟まっていた。	224	7	～ 49	30
2015	7	12 ～ 13	被災者が指揮者となり、石の上に設置された軽油用の燃料タンクをドラグ・ショベルを用い、動かそうとしたところ、燃料タンクが被災者の方向に倒れてきて燃料タンクに胸部を挟まれたもの。	142	5	～ 9	1
2015	9	14 ～ 15	土砂処分場内で、被災者が大型ドラグショベルを運転して作業道を走行中、路肩が崩れ土砂処分用の穴にドラグショベルごと転落したもの。	142	1	～ 9	1
2015	9	14 ～ 15	砕石プラントのホッパー部分の補修作業のため、プラント3階部分の高さ4.5メートルの歩廊上に脚立を置き、ホッパー側面の鉄板を交換し、鉄板のボルトをナット締めをしていたところ、地上に墜落したもの。	371	1	～ 29	10
2015	2	11 ～ 12	プラント内コンベヤー（ベルト幅110センチメートル、プーリー直径27センチメートル）の巡視中にプーリーに巻き込まれたもの。約3メートル下の雪面に落下していた状態で発見された。被災者の周りに曲げられた状態の金づち、角材（長さ60センチ）が落ちていたことから、プーリーもしくはコンベヤーに付着した泥等を取り除くため、コンベヤーが稼働している状態で角材等がプーリーに接触したものと推定される。	224	7	～ 29	10
2015	6	12 ～ 13	被災者（派遣社員）は、休憩時間に昼食を食べるために、砕石プラントのホッパー前を歩行して移動中、砕石プラントのホッパーに岩石を投入するためにバックしてきたダンプ（車両系荷役運搬機械）の後輪に轢かれ、死亡した。（死亡日時 平成27年6月4日午前3時頃）	221	7	～ 49	30
2014	2	14 ～ 15	階段採掘法による採石現場で、3段目の階段で発破した岩石をドラグ・ショベル（機体重量25t）により一番下まで落とす作業中、3段目上部の岩石が崩落し、その崩落により被災者はドラグ・ショベルと共に43.7mの一番下まで転落。運転席から投げ出され、全身挫滅で死亡した。	711	5	～ 29	10
		13	砕石プラント操作室にて、ベルトコンベヤーの稼働状況を監視していた際、				10

2014	4	～ 14	異常表示を確認し、コンベヤーの確認に行ったところ、ベルトとプーリーとの間に上半身を挟まれた被災者を発見した。	224	7	～ 29
2014	4	～ 17	ドラグショベルをコンベアの下から通過させようと高さを確認していたところ、運転席左側にあるアーム操作レバーを誤って作動させ、コンベアの下フレームとの間にはさまれた。	142	7	～ 49
2014	5	～ 10	砕石プラント施設の篩い分け装置の補修作業中、篩い分け装置内部のゴムシートが燃え出したため、消火しようと篩い分け装置内部に入った被災者は、逃げ遅れ、焼死した。	331	16	～ 29
2014	8	～ 10	9 石切場から切り出した石を、巻上げ機を操作し、横坑の途中に設けられた立坑に下ろす作業を行っていたところ、巻上げ機とともに立坑内に墜落した。	416	1	～ 9
2014	11	～ 11	0 採石場内の作業道拡幅作業中、法面に発破を装填するための穴をクローラドリルで水平方向に掘削していたところ、法面の岩盤が崩壊し、クローラドリルが崩壊した岩盤及びその上方の土砂の下敷きとなった。	711	5	～ 9
2014	11	～ 17	16 雑木の伐採及び集積作業中、被災者が運転するトラクターショベルが、橋に設けていたガードレール及びガイドパイプを突き破り、下の川に転落、横転した。	141	1	～ 29
2014	12	～ 12	11 高さ約5メートルの箇所にて、コンベアの清掃作業を行っていたところ、墜落した。	417	1	～ 9
2013	12	～ 15	14 砕石プラントにおいて、クラッシャーの点検を一人で行っていた被災者は、クラッシャー下部にある運転中のベルトコンベアのローラー部分（直径50cm）に巻き込まれた。	224	7	～ 29
2013	10	～ 17	被災者は、ドラグショベルで採石場の表土の除去作業を行っていた。数段下のベンチでは同僚がドラグショベルにより採石の選別作業を行っており、終業が近づいたため、同僚はドラグショベルを運転し、採石場下方へ移動を始めたが、いつもなら後を追って降りてくる被災者が降りてこないため、上部	142	1	～ 9

			方向へ上がって見たところ、被災者が運転していたドラグショベルが転落・横転し、その脇で倒れている被災者を発見した。			
2013	1	8 ～ 9	被災者は、粉碎機の運転管理を行っていた。災害発生当日、4台のダンプトラックが原石を粉碎機に投入し、5台目のダンプトラックが原石を投入しようとしたところ、粉碎機に不具合が生じたため、ダンプトラックの運転手が被災者を呼ぼうとしたが見当たらず、ベルトコンベア先の粉碎した石の山の中に被災者が埋まっているところを発見された。	162	7	10 ～ 29
2013	3	9 ～ 10	被災者は、窪地水中の調子が悪かった排水ポンプをブレーカーのピックで吊り上げるために、窪地の排雪路上をブレーカーで走行中、路肩が崩壊し、ブレーカーとともに窪地水中に転落し、溺死により死亡した。	719	1	10 ～ 29
2013	7	10 ～ 11	砕石プラント敷地内において、トラクターショベルにより通路の整地作業が行われていた際、その後方を作業員が横断し、後退してきたトラクターショベルに轢かれた。	141	6	10 ～ 29
2012	5	8 ～ 9	被災者は砕石場内にて、傾斜地（斜度6度）に駐車してあった貨物自動車の発動機を始動させたところ、約15m惰性走行し、高さ約40mの崖状の絶壁から転落した。なお、被災者は、転落途中事故機から離れたものの、高さ約15mの段差上の平坦部分に、約25m墜落（滑落）した。	221	1	1 ～ 9
2012	7	13 ～ 14	安山岩の採石場において、ベンチ部で発破で掘削した岩石をドラグ・ショベルで下に落としていた被災者は、ドラグ・ショベルとともに法肩から約100m下に転落した。	711	1	10 ～ 29
2011	6	15 ～ 16	採石場内において、被災者は、トラクター・ショベルを使用し、道路脇に崩落した土砂の除去作業終了後、当該機械を土砂崩壊場所から採石場内の砂利置き場へ移動させる際に、当該機械とともに砂利置き場から崖下へ約20m転落し、死亡した。	141	1	10 ～ 29
2011	6	10 ～	採石現場において4.75トントラックで表土を切羽から下り坂を下りた先の表土置場に運ぶ際に、車両が右側の盛り土に乗り上げ、制御不能となったため、運転手は運転席から飛び出したかまたは投げ出され、車両に轢かれ死亡したもの。車両は運転手不在のまま40メートルほど走り、盛り土に乗り	221	7	30 ～

		11	上げ横転して停止した。なお、車両の右前輪は車軸が折れた状態になっていた。			49
2011	2	17	木くず破碎チップの積み込み作業を行うために事務所の北側から当該積み作業場所へ向って走行していたトラクターショベルに、場内を歩行中の被災者が上半身を轢かれたもの。	141	7	10 ～ 29
2011	5	10	ドラグショベル及びダンプトラックを使用し、採石場ベンチ上において、岩石積み出し作業中、ベンチ上で場所を移動しようとした、ドラグショベルとともに高さ15メートル下のベンチに転落し、全身を打撲し死亡したもの。	711	1	10 ～ 29
2011	11	16	被災者は、トラクターショベルにて砂利等の運搬作業を行い、作業が終了したため以前原石の貯蔵タンクとして使用していたサイロの下部（高さ約2	141	7	10 ～ 29
		17	m、幅約5m、奥行き約5m）にトラクターショベルを片付けようと後進したところ、天井から突き出しているダクトに運転座席が激突し、そのまま運転座席とハンドルの間にはさまれ、窒息により死亡した。			
2011	11	15	被災者は1人でトラクタ・ショベルにて、3次側プラントのコンベアの下にたまった落鉱を1次堆積場の山の上に降ろし、バックで山の上からスロープを下る際に、左後方の法面に左後輪が乗り上げ、車体がバランスを崩し、右側に転倒した。トラクタ・ショベルはスロープ下の地面に転落し、運転していた被災者は運転席から落ち、転倒したトラクタ・ショベルの左側面と地面との間に挟まれ、8日後に死亡した。	141	1	10 ～ 29
2010	7	14	事業場内碎石場において、被災者は、脱水ケーキをダンプトラックに積載するために、ダンプトラックから脱水ケーキがこぼれ落ちない措置として、40mmのふるいを通る碎石を別の労働者が運転するバックホウにより、ダンプトラック最後方に約2立方m積載させた。その後、被災者は、ダンプトラックをバックさせ脱水ケーキを積み込む位置まで移動させようとしたところ、ダンプトラックとともに、崖下の池に墜落したもの。	221	1	10 ～ 29
		9	ドラグ・ショベルの修理作業を行っていた被災者から約31m離れた箇所で碎石の選別作業を行っていた同僚が、同ドラグ・ショベルの運転席後ろのカ			10

2010	4	～ 10	ウンターウェイトの端から墜落する被災者を目撃した。すぐに被災者は病院に搬送されたが1週間後に死亡が確認された。カウンターウェイト上面から墜落箇所までの高さは2.3mであり、災害発生時、被災者はヘルメットを着用していなかった。	142	1	～ 29
2009	7	11 ～ 12	作業道を開設するため、掘削した土砂を下方の作業道へ落としたあと、ドラグ・ショベルを用いてダンプトラックへ積み込んで残土の運搬を行っていたが、作業道が崩壊したため、ドラグ・ショベルごと約50m下の川へ転落した。	142	1	1 ～ 9
2009	6	14 ～ 15	被災者は、使用済コンクリートの再生プラントにおいてベルトコンベヤー上のコンクリート製品以外の異物を取り除く作業を行っていたが、何らかの原因でコンベヤーのゴムベルトとローラーの間に巻き込まれた。	224	7	10 ～ 29
2009	6	18 ～ 19	場内において、ダンプトラック（最大積載量：32t）に原石を積み込み、場内のプラントへ運搬していたところ、ダンプトラックが走行路（幅員：約10m）から約50m下の走行路へ転落した。被災者は転落中に車外へ投げ出されて死亡した。	221	1	10 ～ 29
2009	6	15 ～ 16	2tダンプによる泥運搬作業中、運転操作を誤り、路肩の土堤を乗り越えてダンプごと約19m転落し、被災者は車外に投げ出された。	221	1	10 ～ 29
2009	6	10 ～ 11	採石場である事業場内において、コンクリートミキサー車（10t車）を一部改造した散水車で運搬通路（幅11.8m）を走行中、高さ37mの法面を車ごと転落し、被災者が投げ出された。この場所は採石側（切羽側）ではなく谷側の沢で角度30度ほどある。運搬通路は、角度15度、幅11.8mあり路肩には転落防止用のため高さ0.6～0.7mほど盛土されている。	221	1	30 ～ 49
2009	3	13 ～ 14	採石場の頂上付近で、ドラグ・ショベルを使用して除雪作業を行っていたところ、路肩から約140m下にドラグ・ショベルとともに転落した。	142	1	1 ～ 9
		16	事業場内で、水深約8mの沈澱池と呼ばれるため池に堤防を作り、ため池を二つに分ける整備作業を作業員4人で行っていたところ、被災者の運転する			10

2009	12	～ 17	25tダンプトラックが、ため池に整備中の堤防の上に土砂を積み降ろしするため後進中、車両の右後輪付近から水中に転落した。	221	1	～ 29
2008	5	～ 15	14 採石場において、被災者が発破のためのせん孔作業をクローラドリルにより 行っていたところ、せん孔箇所上部の岩石が落下してクローラドリルとともに 15 にその岩石の下敷きとなった。	711	4	10 ～ 29
2008	12	13 ～ 14	クローラドリルを運転して岩盤に水平よりやや上向き傾斜で高さ約3mの位置に発破用の穴を穿孔していたところ、穴に投入するロッドがガイドシェルにセットされずにその下のチェーンの上に落ちた。被災者は当該ロッドを取り除くためガイドシェルに昇り当該ロッドを取り除いたところ、バランスを崩して地面に墜落した。落ちた場所は、キャビンの天端高さ2.6mより高い位置であった。	149	1	10 ～ 29
2008	3	～ 15	被災者が最大積載荷重20tのダンプトラックの荷台に約13tの砂利を積んで、 14 長さ約60m、幅員約5.5m、平均斜度約10度の採石工場内の車両通行用道路 を降りていた。その際、ダンプトラックが道路路肩を逸脱し、約40度の路肩 15 斜面を一回転半して約3.5m下の地面へ転落し、横倒しとなったダンプトラックの下敷きになった。	221	1	10 ～ 29
2008	6	10 ～ 11	ブル・ドーザーの履帯と乗降ステップとの間に身体がはさまれて即死の状態で発見された。発見時、パーキングブレーキがかけられておらず、原動機も止められていない状態であり、排土板は地上におろされていた。作業場所は10度程度の勾配があり、排土板が地面を後退しながら掻いた痕が約3mの距離で認められた。	141	7	10 ～ 29
2008	7	11 ～ 12	採石場内において、石を運搬するため重ダンプを運転して約15度の坂道を登っていた際に、ダンプの駆動軸の連結部品（ユニバーサルジョイント）が破損脱落してダンプが制御不能となり、坂を逆走して調整池にダンプごと転落した。	221	1	1 ～ 9
2007	11	～ 10	採石場でトラクター・ショベルを運転中、左カーブの下り坂（勾配10～18度）を曲がらず直進し、高さ13.2m、勾配55度の法面を転落、トラ	141	1	1 ～

		11	クター・ショベルの下敷きになった。			9
2007	12	16 ～ 17	砕石場内において、砂を30tダンプトラックで運搬し、所定の場所に降ろすためUターンしていたところ、Uターン場所の路肩が突然崩壊したため、ダンプトラックが転落した。	221	1	10 ～ 29
2007	8	15 ～ 16	砕石工場において、運転中のベルトコンベヤー（全長4km、ベルト速度140m/min）の底面側にあるベルト反転用ローラー（ベルトの土砂を取り除くもの：駆動源なし）の下方の床にたまった土砂を掃除するため、被災者は単独で、点検歩道から床に下り、スコップで土砂をすくって掃除をしていたところ、ベルト反転用ローラーと当該コンベヤーのベルトの間（隙間4.5cm）に巻き込まれた。	224	7	10 ～ 29
2007	5	6 ～ 7	砕石工場内で、朝礼に向かう途中、刺された。	921	90	10 ～ 29
2007	4	8 ～ 9	採石場にて散水のため使用していたタンクローリーをドラグ・ショベルにより牽引しながら採石場の仮設道路（勾配15度）を下りていたところ、牽引用に使用したワイヤロープを掛けていたタンクローリー後部の突入防止装置が腐蝕により折れてワイヤロープが外れたためタンクローリーが逸走し、工事用道路を下った先の採石集積場に乗り上げた後、約15m下にタンクローリーが転落し、運転席にいた被災者が死亡した。	221	1	10 ～ 29
2007	4	9 ～ 10	先山から出た山砂（表土）を20tダンプに17t程度積んで、約300m下の堆積場に降ろすため、坂道（勾配約10度）を下りていたところ、緩いカーブを曲がりきれずに直進し、約20mの崖下に転落した。	221	1	1 ～ 9
2007	12	13 ～ 14	コンベヤーから砕石が供給されないことからプラントの点検を行ったところ、コンベヤーのドラムに巻き込まれている状態の被災者を発見した。被災者はプラントの見回り作業（点検・清掃）を行っていた。	224	7	10 ～ 29
2006	12	14 ～ 15	残土処分場にて車両（4ドアタイプのいわゆるピックアップトラックであり、場内のみ運行につきナンバープレートの交付なし）の下敷きになってるのが発見された。	221	6	10 ～ 29

2006	9	9 ～ 10	始業点検中、クラッシャー上部のホッパーから転落し、クラッシャーに挟まれた。	162	7	10 ～ 29
2006	10	7 ～ 8	砕石工場において、砕石の破碎作業に従事していた労働者が、コンベヤーに巻き込まれた。	224	7	10 ～ 29
2006	7	9 ～ 10	砕石製造プラント内部のベルトコンベアーの点検通路で、被災者が巻き込まれた状態で発見された。負傷後意識が回復したものの、事故発生から1.5	224	7	10 ～ 29
2006	8	13 ～ 14	石加工工場内で、フォークリフトの下敷きになっている被災者を同僚が発見した。	222	2	1 ～ 9
2006	7	10 ～ 11	採石場に置いていた鉄骨製架台を10トンダンプトラックに載せて工場資材置場に運搬後、ダンプ荷台をダンプアップして鉄骨製架台をずり降ろそうとしていたところ、同架台が一旦地面に落ちたが横に倒れ、トラックの脇で合	521	6	10 ～ 29
2006	6	10 ～ 11	砕石プラントのベルトコンベアのテール側プーリーベルトのずれを修正するよう操作室から被災者に指示した。その後当該コンベア下部で仰向けに座り	224	7	10 ～ 29
2006	4	11 ～ 12	採石場構内通路（斜路）において、被災者が運転する4tトラックが構内通路の斜路を上っていたところ、上方から下ってきたトラクター・ショベルと	141	6	10 ～ 29
2006	4	17 ～ 18	汚水処理の建屋において、自動マルチプレス（汚水を汚泥と水に分別する装置）の老朽化した濾布枠（濾過する枠）をクレーン（定格荷重500kg）を用いて交換していたところ、立てかけていた濾布枠が倒れ、自動マルチプレスと濾布枠との間に挟まれた。	169	5	1 ～ 9

2006	4	17 ～ 18	露天掘り・階段採掘現場で、被災者は、ドラッグショベルを使用して作業に従事していた。作業終了間際に、パラパラと小石が落下してきたため、法尻にいた作業者が無線機で被災者に「崩れるからにげろ。」と呼びかけた直後に、法面が崩れ運転席付近に岩塊が落下し、被災者は運転席から投げ出され、死亡した。	711	5	～ 29	10
2006	4	15 ～ 16	土砂を積載した32トンダンプカーを被災者が運転して、上方にある土砂置き場に運搬中、ダンプカーごと16.3メートル下の道路に転落し、車外に放り出された。	221	1	～ 29	10
2005	4	16 ～ 17	碎石作業中に、10日前にクサビを打ち放置していた岩石（縦横10m、高さ6m）が崩壊し、岩石下方にいた被災者が、クサビを打つために岩石上に足場として積載していた土砂あるいは岩石によって押し出された土砂に埋もれた。	711	5	～ 9	1
2005	2	0 ～ 1	昼の休憩時刻に入り、昼食の用意ができたことを露天掘りの底で作業していた同僚に、手すりの無い部分の路肩に立って連絡しようとしていたところ、足を踏み外して40m下の採掘現場に墜落した。	711	1	～ 9	1
2005	1	10 ～ 11	事業場構内のベルトコンベヤーの動力伝達部分において、ベルトコンベヤーが稼働した状態で、被災者がスコップを用いてバンドプーリにこびりついた土砂を取り除いていたところ、バンドプーリとベルトの間に巻き込まれた。	224	7	～ 29	10
2005	10	8 ～ 9	自社車庫内において、コンクリートミキサー車の暖機運転のため、運転台のドアを開いて運転台に乗らずにキーを回したところ、ギヤが1速に入っていたため急に動き出して、運転台のドアが車庫内右側の壁に激突し、ドアと運転台との間に挟まれた。	221	7	～ 29	10
2005	5	0 ～ 1	碎石貯蔵タンク下の基礎部へ小型ドラグ・ショベルで入り、タンク脇の堆積粉じんを除去しようとしたが、現場が狭いためバックしたときにケーブルラックに激突した。	142	3	～ 29	10
2005	9	9 ～	コンベヤーにより砂利を搬出していたところ、砂利ホッパー付近に砂利が少なくなり、ホッパー内に砂利が自然流下しなくなっていた。そこで、ホッパーを中心として形成されたすり鉢状の砂利山の周縁部分をホッパーに向	523	1	～	30

		10	かつて蹴り落としていたところ、砂利面を砂利とともに滑り落ち、生き埋めになった。			49
2005	6	14 ～ 15	切羽より原石をトラックで運搬作業中、トラックが作業道路から60m下に転落した。	221	1	1 ～ 9
2005	1	11 ～ 12	砕石場で石を小割りしていた時、当該崖から崩れ落ちた巨石（重さ20トン）が、当該ブレーカーに激突し、運転席の被災者が押し潰された。	711	5	10 ～ 29
2005	11	10 ～ 11	ドラグ・ショベルの旋回範囲内に被災者が立ち入った際に、当該ドラグ・ショベルが旋回し、すぐ脇に停車中の他のドラグ・ショベルとの間に挟まれた。	142	6	10 ～ 29
2005	7	14 ～ 15	ドラグ・ショベルにてずり出し作業中、上部法面が崩壊し、運転席から降りて脱出しようとしたが、土石に巻き込まれ、生き埋めとなった。	711	5	10 ～ 29
2005	7	18 ～ 19	ベンチ部の岩石を発破により掘削するため、発破の装填を完了し、点火したところ、発破に巻き込まれた。	511	4	10 ～ 29
2004	4	10 ～ 11	採石の選別機のアペレータをしていた被災者が、採石を運ぶベルトコンベアとホッパー出口のスカート部との間に挟まれた。	224	7	10 ～ 29
2004	1	9 ～ 10	同僚とトラクター・ショベルの運転を交替し、運転室横ステージに乗っていた被災者が、トラクター・ショベルが前進した際に転落、後輪に巻き込まれてひかれた。	141	7	10 ～ 29
2004	8	13 ～ 14	事業場構内の配電柱上に設置している電気スイッチ二次側開閉器の「入」側の操作紐が切れたため、当該柱上に登り操作紐を解こうとした際に感電し、約7m下の地上に墜落した。	351	13	1 ～ 9
		13	採石場において、採取し破碎された土石を積載した10 t ダンプトラックを運			10

2004	5	～ 14	転し、構内の中腹にある土石選別プラントに運ぶため、山道を下っていたところ、運転操作を誤り、ダンプトラックが山腹に突っ込み横転し、そのはずみで被災者は車外に投げ出された。	221	3	～ 29
2004	8	～ 12	残土置き場に仮置きしていたダンプカー（部品取用の不働車）を別の残土置き場に移動させるため、ブル・ドーザーで牽引中、牽引に使用していたワイヤロープ（直径18mm、全長4.5m）が切断し、ダンプカーが坂道を下り、約50m下がったカーブに差し掛かったところで路肩に乗り上げ、その反動で横転し、運転手がダンプカーに挟まれた。	379	1	～ 29
2004	8	～ 16	ブレーカーの運転席から身をのり出したときに身体が操作レバーに接触し、ブームが降下して、ブームと車体の間に挟まれた。	145	7	～ 29
2004	3	～ 14	道路工事等に使用する砕石を製造している事業場において、車両系建設機械（ブレーカー付ドラグシャベル）を使用し、採取した砕石を砕く小割り作業に従事していたところ、作業場所の上部の棚が崩壊し、機械ごと土砂に埋まった。	711	5	～ 29
2003	12	～ 15	砕石プラントにおいて、スクリーンでふるい分けられた砕石を次の工程に運搬する動力コンベヤに不具合が発生していたため、補修を行って運転を開始していたときに、コンベヤのテールプーリー部分に左手を巻き込まれた。	224	7	～ 29
2003	10	～ 9	山間の採石場で、泥取り作業を行っていたトラクター・シヨベルが見えなくなったので探したところ、作業場端の高さ約19mの崖下に転落しているのが発見された。	141	1	～ 9
2003	8	～ 16	事業場内のリサイクルプラントにおいて、コンクリートと分離した鉄筋を積載した10tダンプ・トラックを移動させようとしたところ、バッテリーが上がっていてエンジンがかからず、そのままエンジンがかかっていない状態で約10m走行し、約13m下の調整池に転落した。	221	1	～ 29
2003	6	～ 9	砕石場において、岩石を運搬するため積込み場所にダンプ・トラックを後進させていたときに、その付近にあった岩石が崩壊して運転席に激突した。	711	5	～ 9

2003	2	11 ～ 12	採石場で、火薬類を装填する穴を穿孔し終えて穿孔機に乗車して後方に移動中、上部の岩盤が崩落し下敷きになった。	711	5	10 ～ 29
2003	2	16 ～ 17	採石場のプラントの投入口で、20tダンプ・トラック（一人乗り）の荷台を上げて採石をプラントの投入口に投入し、荷台を下げたところ、近くにいた作業者が荷台先端部と運転席との間に頭部をはさまれた。	221	7	10 ～ 29
2002	12	11 ～ 12	25 t ダンプトラックに採石場で出たズリを積んでプラントに向かう途中、路肩より約60m下にダンプごと転落した。	221	1	30 ～ 49
2002	11	10 ～ 11	採石場において、小型ドラグショベルで水路内の土砂を取り除く作業を行っていたところ、直径104 cmの石が落下してきて下敷きになった。	711	7	10 ～ 29
2002	11	15 ～ 16	ドラグショベルで採石場への進入路の拡幅作業を行っていたときに、高さ約70m下の土場にドラグショベルとともに転落した。	142	1	10 ～ 29
2002	11	11 ～ 12	採石山において、次の発破の前作業としてドラグショベルで地面を均していたときに、岩盤が掘削面からはがれてドラグショベルを直撃し運転者が運転室内で押し潰された。	711	5	1 ～ 9
2002	10	0 ～ 1	採石場で岩盤から岩を切り出す作業をジェットバーナーを使用して行っていて、崩落した岩（20?）に激突された。	711	5	1 ～ 9
2002	9	11 ～ 12	岩石採取場の作業道を作るため、発破をかけた15分後に単独でドラグショベルを用いて作業を行っていたが、その後ドラグショベルが稼働していないことを同僚が不審に思い様子を見に行ったところ、斜面の崩壊で落下した石によりドラグショベルの運転席内で押しつぶされているのを発見した。	711	5	10 ～ 29
		10	砕石プラントの二次クラッシャー内に石が詰まってクラッシャーが自動停止したので、石を除去しベルトコンベアー上で作業員2名が点検口を閉じたの			30

2002	9	～ 11	を見た別の作業員2名が操作室にいた操作者にクラッシャーを動かしてみるよう合図を送ったところ、操作者が通常運転再開の合図と勘違いしてベルトコンベアーを動かしたため、コンベアーとクラッシャーのアンダーホッパーとの間に挟まれ1名が死亡した。	224	7	～ 49
2002	7	～ 15	採石場でブレーカーにより掘削作業を行っていたところ、ブレーカー先端の掘削箇所の上部にあった岩石（約1t以上）が崩落して運転席に落下し、運転席もろとも押しつぶされた。	711	4	～ 29
2002	5	8 ～ 9	砕石プラントのベルトコンベアーの点検・注油作業中に、ベルトコンベアーと砕石ホッパーとの間に挟まれた。	224	7	10 ～ 29
2002	3	7 ～ 8	岩石破砕機のホッパー内において、ホッパー中央部の溝周辺に詰まった石を手で掻き出してドラグショベルのバケットに入れ、ホッパーの四隅に仮置きする作業をしていたところ、ドラグショベル運転手がバケットを操作して作業員に激突させた。	142	6	10 ～ 29
2002	4	8 ～ 9	採石場内において、近くの工事現場で発生した土を再利用するため仮置きすることとなり、ダンプによる搬入に備えホイールローダー（17t）を使用し掻き揚げを行っていたところ、高さ約5mの頂上付近でホイールローダーが転落し運転室が圧潰した。	141	1	1 ～ 9
2002	2	22 ～ 23	採石場の切羽近くにおいて、ブル・ドーザーを運転して「ずり」を押していたところ、14m下の段へブルごと転落し、さらにその勢いで60m下の崖下に転落し「ずり」に埋まった。	141	1	30 ～ 49
2002	1	16 ～ 17	採石現場においてタイヤショベルでクラッシャーのホッパーに砕石を投入作業中、通路を外れて高さ約7m、勾配約40度の斜面をショベルが後ろ向きに滑り落ち、運転席から投げ出された。	141	1	1 ～ 9
2001	3	10 ～ 11	地元の住民から地山崩壊(約10万?)の連絡があったので、採石作業は中止して地山の様子を見ていたところ、高さ約250m、幅約150mにわたり地山が崩壊して、工場長、トラックへ積み込み作業員、トラック運転手の3名が逃げ遅れ生埋めになった。	711	5	1 ～ 9

2001	11	16 ～ 17	破砕機のホッパーに詰まった原石をブレイカー(機体質量23.64t)で小割りする作業をブレイカーの旋回範囲内で見ていた。ダンプ運転手を旋回範囲外へ退避させようとしていたときにブレイカーが左旋回してきたためバランスを崩した2人のうち1人が擁壁上から6.6m下に墜落した。	418	1	10 ～ 29
2001	10	10 ～ 11	石と土砂を分離する「とおし」と呼ぶ設備を改修するため、ドラグショベル(バケット容量1.2?)のバケットにワイヤロープを掛け鋼棒(質量950kg、長さ6m)を吊って作業をしていたときに、鋼棒を吊っていたワイヤロープが切断したため鋼棒が落下し設備の下方にいた者に激突した。	372	4	10 ～ 29
2001	10	8 ～ 9	採石プラントの集中管理室で整粒機が異常を示したので、集中管理室で整粒機を停止させ、点検口より内部に入って整粒機下部にあるコンベヤーにはさまれた。	162	7	10 ～ 29
2001	10	7 ～ 8	積載量32tのダンプに原石を積んで走行中、蛇行した坂道で運行経路を外れ、約20～30mの崖下に転落した。	221	1	30 ～ 49
2001	8	16 ～ 17	碎石プラントの終業前点検中にベルトコンベアのローラーに挟まっていたゴムベルトの切れ端をコンベアを停止させずに取り除こうとして右腕をコンベアのローラー部に巻き込まれ、右腕を切断した。	224	7	10 ～ 29
2001	7	16 ～ 17	製砂場において、トラクターショベルを運転中、作業用通路から約15m下の土場に転落した。	141	1	10 ～ 29
2001	7	14 ～ 15	採石作業現場において、岩山に被った土砂を10tトラックで運搬し深さ約40mの窪みに落とす作業で、土砂を窪みに落とすときに路肩に寄せすぎたためトラックとともに約40m転落した。	221	1	1 ～ 9
2001	6	11 ～ 12	採石作業場で発破後、作業道を後退してきたドラグショベルに足をひかれた。	142	7	10 ～ 29
		10	地元住民から地山崩壊(約10万m <sup>3</sup> )の連絡があったので、採石作業を中止し			1

2001	3	～ 11	て地山の様子をみていたときに、高さ約250m、幅約150mにわたり地山が崩壊して、工場長(遺体で発見)、トラックへ積込み作業を行っていた作業員(行方不明)、トラック運転手の3名が逃げ遅れて生き埋めになった。	711	5	～ 9
2001	2	～ 12	坑内の支保工組立作業において、交流アーク溶接機を使用してH形支保工に鉄板を溶接作業をしているときに、ホルダーの溶接棒が身体に触れ感電した。	332	13	～ 9
2001	2	～ 11	採石場において、高さ約76m、幅約15m、奥行き約3mの柱状の石が法面から剥離して法面の下で切り崩した石を掻き出す作業を行っていたドラッグショベルの上に崩れ落ちてドラッグショベルの運転席が大破した。	711	5	～ 49
2001	1	～ 17	採石場の一次破碎クラッシャーの点検、見回り作業中にジョークラッシャー内に転落し、稼働中であった破碎板に頭部を挟まれた。	162	1	～ 29
2001	1	～ 17	採石場の工事用道路をドラッグショベルで下っていたときに積雪のため路肩からドラッグショベルごと横転し、運転席にはさまれた。	142	1	～ 29
2001	1	～ 17	採石場において、ドラッグ・ショベル(機体質量35t)岩盤上に堆積した土砂を土場に落とす作業を行っていたときに、谷側の地盤が崩れ、機体とともに約70m下まで墜落した。	141	1	～ 29
2000	11	～ 9	碎石現場内を、タイヤショベル(機体質量20t)で走行中に、オペレーターが前方の作業者に気付かずに右側前輪でひいた。	141	7	～ 9
2000	8	～ 12	タンクの碎石を出口シュートに碎石が詰まったのでシュート内部をダンプの荷台から鉄棒でつついたが改善しなかったため、タンク内に入りシュート口を鉄棒でつついていたときに体勢を崩しシュート口へ滑り落ち肩まで碎石に埋まった。	523	1	～ 29
2000	4	～ 10	採石場において鉄板をクローラ式ドラッグショベルで吊り上げ、10tトラックに積み込む作業で、トラック荷台上で誘導をしていたところ、荷を吊ってい	372	4	～ 1

		11	たワイヤーロープが切断したためトラック荷台の横のあおりと鉄板との間に挟まった。			9
2000	2	10 ～ 11	バックホーで振動ふるい機を台座に据え付ける作業中に、振動ふるい機が揺れたため乗っていたコンベヤから足をすべらし、その直後に振動ふるい機とコンベヤとの間に腹部を挟まれた。	142	7	1 ～ 9
2000	12	21 ～ 22	深さ約30mの立坑内の貯水場(深さ約2m)の水中ポンプの交換中に感電した。	169	13	10 ～ 29
2000	12	10 ～ 11	砕石場でドラグショベルを使用し採石作業を行っていたときに、掘削面の地山が崩壊し、約1tの岩石が運転席を直撃した。	711	5	1 ～ 9
2000	12	13 ～ 14	採石場の掘削場所からオープンシュート(高低差、約100m)により岩石が集積される小割場において、車輛系建設機械(ブレーカー)に乗って作業をしていたところ、キャビンの天井を突き破って入ってきた石に直撃された。	523	4	30 ～ 49
2000	3	0 ～ 1	砕石プラントのトロンメル(砂、石を選別する機械)の中で付着した泥の除去作業を行っていたときに、他の者が起動スイッチを入れたためにトロンメルが回転し、その拍子にトロンメルの開口部分からシュートを通り下方のコンベアまで転落した。	169	7	10 ～ 29
2000	1	16 ～ 17	採石現場で土砂崩壊により転倒したドラグショベルを2台のドラグショベルで引き起こす作業中に、2度目の土砂崩壊(高さ約160m、幅約70m)が発生し、ドラグショベルにワイヤーを掛けていた者が巻き込まれた。	711	5	10 ～ 29
2000	11	5 ～ 6	県道をダンプカーで走行中、約10メートル崖下に転落した。	221	17	1 ～ 9
2000	1	15 ～ 16	砕石場プラントのベルトコンベヤーとドラムに付着した物をL型に加工したアングルで除去しようとして、ベルトとドラムとの間にアングルとともに上半身が巻き込まれ頸部を切断された。	224	7	10 ～ 29

2000	12	9 ～ 10	砕石プラントのベルトコンベアで運ばれる砕石の量が少ないことを不審に思って、一次クラッシャーのシュート部を見に行ったところ、稼働中のクラッシャーに挟まれている同僚を発見した。	162	7	～ 9
2000	10	10 ～ 11	採石現場のクラッシャー操作を行っていて、ホッパー上部の開口部(縦112cm・横95cm)から墜落し、クラッシャーの歯に頭部をはさまれた。	162	7	～ 9
1999	12	17 ～ 18	ドラグショベルで砕石をダンプ(32t)の荷台に積み込むため、ダンプ運転手がバックでドラグショベルに接近していたが、止まれの合図(クラクションを鳴らす)がないためそのままバックしていたところ、ドラグショベルの油圧ホース部分にダンプの荷台が当たったので、ダンプの運転手がダンプを降りて見たところ合図者がドラグショベルのバケットの下に倒れていた。	142	6	～ 29
1999	12	13 ～ 14	運転手交代のためトラクターショベルから降りて車輛置場から次の作業場へ歩いて向かっていたところ、車輛置場からバックで出てきたトラクターショベルにひかれた。	141	6	～ 29
1999	11	11 ～ 12	発破現場に向かうため乗用車で走行中、通路から約8m下へ転落した。	231	1	～ 29
1999	11	10 ～ 11	貨物自動車で岩石を砕石プラントへ運び砕石プラントのホッパーへ投入するため、貨物自動車を後進させていたときに、搬入口横のガードレールを突き破り25メートル下に転落した。	221	1	～ 9
1999	10	14 ～ 15	砕石破砕プラントにおいて、コンベヤーの回転軸に右手が巻き込まれた。	224	7	～ 29
1999	8	11 ～ 12	墓石用の採石場で、原石を採掘するため先山に削岩機で3箇所穴を空け、鉄製の込棒とげんのうを用いて黒色火薬の装薬中に突然爆発が起きたため込棒が頸部に当たった。	511	14	～ 9
		14	細骨材(砂)を製造するための花崗岩を採取する採石場において、ブレーカー			30

1999	8	～	の運転者が切羽の崩壊(200から300立方メートル)により滑り落ちた岩石(重量約40t)の直撃によってつぶされた運転室内で胸部等を挟まれた。	711	5	～
	15					49
1999	8	～	採石場でドラグショベルを用いて小割及び浮石落しの作業を行なっていて、高さ約11mの箇所の浮石落しを行ったところ、当該箇所の岩4個、重さ約	523	4	～
	11		0.25～3.2tがショベルのキャabinを直撃し、運転席がつぶれた。			29
1999	7	～	採石場において、発破後の切り取り部分の岩をドラグショベルでかき落とすため、まずベンチカットの上部表土を落とそうとドラグショベルを路肩に近づいたときに、ショベルとともに路肩から約15m転落し、機体の下敷になった。	142	1	～
	10					10
	11					29
1999	5	～	採石場の残壁下部で発破の準備作業を行っていたところ、約200m上より小石が落下してきて後頭部を直撃し負傷した。	711	4	～
	15					10
	16					29
1999	6	～	砕石プラント工程で、石を運ぶベルトコンベヤーのうち戻り側のベルト緩み修正ローラーと戻り側のベルトの間に巻き込まれた。	224	7	～
	10					10
	11					29
1999	4	～	砕石プラント内で砕石クラッシャーの清掃作業を行っていて、作業箇所を移動したときに通路より7.4m下に墜落し被災した。	417	1	～
	13					10
	14					29
1999	6	～	地山崩壊により発生した高さ8m、幅20m、重さ800tの花崗岩を発破で小割する作業で、導火線に点火後、約40m離れたジープとトラックの陰に避難したが、爆破の際に周囲に飛散した岩石のうち2個が当たった。	711	4	～
	14					10
	15					29
1999	5	～	採石現場において、バックホーにより小割した岩石をダンプに積み込んでいたところ、約40m上方から約3?の岩石が落下してきてバックホーの運転席を直撃した。	711	4	～
	9					10
	10					29
1999	1	～	採石場において、油圧ブレーカを使用して砕石作業中に落石があったので、油圧ブレーカの運転手に後退するよう直接指示を出したのち避難するときに油圧ブレーカの運転席側とは逆側のクローラにひかれた。	145	7	～
	10					10
	11					29

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.html](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html)(職場のあんぜんサイト)

[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311\\_01.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.html)に戻る。